

令和7年度 学校評価報告書

丹波篠山市立 篠山小 学校
校長 小林 義 則

1 学校教育目標等

学校経営理念	安全・安心な学校づくり
教育目標	つながり かがやき 笑顔あふれる ささやまっ子 —在りたい自分を見つけよう—

2 今年度の重点目標

<ul style="list-style-type: none"> ・安全で安心して学べる教育環境づくり ・豊かな人間関係や人権感覚の育成 ・地域とともにある学校の推進 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導における協働体制の確立 ・言語活動を充実し確かな学力の定着を図る ・働きやすい職場づくり
--	---

3 学校自己評価結果

(達成状況…A：よく達成できた B：達成できた C：やや課題が残る D：改善を要する)

分野	評価項目	達成状況	取組状況・改善方策
生徒指導	豊かな人間関係 人権感覚の育成	B	・学校に来ることが楽しいと感じている児童が85%保護者92%である。学校の困りごとへの対応については、児童85%、保護者95%ができていると評価。頭での理解と行動が一致しないことがあるので、学習や集団生活など学校生活全般を通じて、児童と一緒に考えていく。
	規範意識の醸成 相手を大切に思うこと心	B	・安全な学校生活を送ろうとしている児童は92%保護者95%と高評価である。定期的に良い行動を伝えてり、掲示することにより、児童が日常の生活の中で意識する場面が増えてきている。 ・「あったか言葉」を意識づける活動や人権プラン発表会を計画し、相手を大切に思う心や自己肯定感を高め育てる活動に取り組んできた。
学習指導	学力の定着 協働的な学び	B	・学習規律を考え、反復練習や個別の支援により少しずつ授業が分かって楽しいなど児童の評価が高くなっている。 ペアトークなど協働的な学習を肯定的に児童は捉えているが、自分の意見を話すことには自信を持つことができていない児童が見られた。
	家庭学習	B	・主体的な学びとなるように宿題の量や内容を工夫してきているが、定着するには時間がかかり今後も引き続き考えていく必要がある。特にマイノートの取組に具体的に取り組む方法を伝えていく。 ・読書習慣を確立する。

地域とともにある学校	ふるさと教育の推進	A	地域に出かけてり、地域の方に来ていただきながら「ふるさと教育」の推進をすることができた。「ふるさと学習」が楽しいと感じたり、意識できている児童や保護者の割合が90%以上である。
	地域の人と連携した取組	A	登校時の立ち番や放課後子ども教室など地域と連携した取組ができた。地域の方に見守っていただいていると保護者児童とも90%を超える評価をいただいている。放課後子ども教室においても非常に高い評価をいただいた。

4 学校関係者評価結果

(1) 重点目標についての評価

<ul style="list-style-type: none"> ・困りごとがあるときに先生や家の人に言えなくても誰かにヘルプを言えるようになってほしいと思います。 ・年間を通して様々な活動を工夫して取り組んでおられるのが素晴らしいと感じている。一方交通事故や観光客の増加や不審者などの心配があります。低学年や少人数での下校については見守りの必要性を感じている。 ・子どもたちの不安に対して、個別の教育相談やカウンセリングの体制を整えていただいていることに対して評価できるし、期待しています。

(2) 総合的な評価（意見・感想）

<ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちの生活習慣の確立については、学校でしっかり指導いただき、実践は各家庭の部分があるので、今後も連携して取り組んでいただきたい。 ・地域の行事に参加している児童とそうでない児童の2極化が見られる。学校でしっかりとふるさと教育をしていただいているので、地域としても少ない子供たちをしっかりと見守り育てていけるように頑張りたい。 ・きっちりと朝ごはんを食べている子どもが多いことは素晴らしいと感じる。
--

(3) 学校自己評価の結果及び改善方策についての評価

分野	学校自己評価の結果及び改善方策についての評価
学習指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の意見を話す」ことについては、人それぞれの表現の仕方があり全員がよくできる事はあり得ないしそうなる必要もないと思う。話をすることは大事だが、その前に自分の意見を持つことが大事だと感じる。 ・インプットの授業の後、アウトプット中心のスタイルを取り入れていくのもよいと思う。
生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・よく工夫して取り組んでいただいていると感じた。しかし様々な問題は起こる。問題が起きたとき、子どもたちに寄り添って行動することが大切だと思います。 ・生活習慣については家庭が中心になることで、学校では知識として学習を通してしっかりと指導してもらえば十分である。保護者との信頼関係を構築したり、繰り返しお願いしたり、育成会で講演会に取り組むなどの方法が考えられる。
地域とともにある学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・老人会大明会と園児との「コミュニティ花壇」、篠山城下まちづくり協議会、菊花同好会の方と5年生との「お苗菊」の取組、ディスカバーささやま、篠山まちなみ保存会と6年生との「お城ガイド」の取組等、これからも地域の団体や個人と積極的につながってふるさと篠山を好きな子どもたちを育てていきたいと思った。 ・今年度から取り組んできた「放課後子ども教室」については、実施方法や内容を考えて継続して取り組んでいきたい。地域の子は宝である。しっかりと見守っていききたい。

